関西大学大学院 外国語教育学研究科 客員教授講演会

AIは人間を馬鹿にするか
ーAIを学習科学の見地から考える

2026年12月12日(土)
10:00-11:30(JST)

オンライン

〇参加費　無料
〇事前申込み　必要

申込み〆切：
2026年12月10日(木) PM17:00(JST)まで
https://forms.cloud.microsoft/r/JZQeSSH9p5

客員教授
當作靖彦
（カリフォルニア大学サンディエゴ校　名誉教授）

概要：

2023年11月のCHATGPTの出現以来、AI、関連テクノロジーは目を見張るほどの発展を遂げ、私たちの生活のあらゆる面に深く入り込み、AIを使わない日はなくなりつつある。このまま発展が続くと、人類を滅ぼすのでないかと危惧され、発展を止めるとか、政府の規制が必要だというような議論も出ている。教育の面でも、教師、学習者ともにAIを使うようになり、いろいろな問題を生み出している。単なる「道具の進化」ではなく、「認知環境の変化」により、教育の目的である「学習」が起きないという根本的な問題が起きている。これが進行すると、人間の進歩は止まり、人類の破滅にもつながりかねない。

本講演では、学習科学の見地からAIを使った教育、学習を考えてみたいと思う。学習科学は1990年代初頭に認知科学、教育心理学、コンピュータ科学、人類学、言語学、神経科学などが融合して成立した。従来の実験室内の限定的な心理実験にとどまらず、「実際の教室や実社会の文脈の中で、人間がどのように理解を深め、意味を構築し、変容していくか」を追究する点に決定的な特徴があるほか、教育を単に「知識を伝える」だけではなく、「認知活動のための最適環境を設定する」とその役割を再定義し、学生は単なる「知識の受容者」ではなく、「自律的、変容的意味の創造者、構築者」であるとし、人間が成長し続けるためには「生涯学習学者になる」ことが必要であるという考えのもと、「人間はどのように学ぶのか（HOW PEOPLE LEARN）」を科学的・学際的に解明し、その知見に基づいて効果的な学習環境・カリキュラム・テクノロジーを設計・実践・評価する学問分野である。
教育・学習でAIを使うことがどのような結果を生み出すかはすでに多くの研究が行われており教育・学習効果が落ちる、思考能力が衰えることなどが報告されている。本講演ではその結果をいつくか概観し、これらの問題を克服するためにはどうしたらいいかを考えてみる。

略歴：

カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)グローバル政策・戦略大学院(GPS)名誉教授。カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院修了(PH.D)。専門は第二言語習得理論及び外国語教授法。アメリカ外国語教育ナショナルスタンダーズ理事会日本語代表理事、コンピュータと日本語教育学会会長、一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)の理事を務める。

ASSOCIATION OF TEACHERS OF JAPANESE会長、外国語教育ロビー団体JOINT NATIONAL COMMITTEE ON LANGUAGES日本語代表、全米日本語教育学会会長など米国の外国語教育関連機関の要職を歴任。”YOOKOSO!: INVITATION TO CONTEMPORARY JAPANESE"。"YOOKOSO!: CONTINUING WITH CONTEMPORARY JAPANESE" (MCGROW-HILL HIGHER EDUCATION)。『ＮＩＰＰＯＮ３．０の処方箋』(講談社)、『ドラえもんのどこでも日本語』(小学館)、『日本語教師の専門能力開発：アメリカの現状と日本への提言』(日本語教育学会)、“SOCIAL NETWORKING APPROACH TO JAPANESE LANGUAGE TEACHING – THE INTERACTION OF LANGUAGE AND CULTURE IN THE DIGITAL AGE”(ROUTLEDGE)等、外国語教育・日本語教育に関する著書多数。国際文化フォーラム(TJF)主宰の「外国語教育のめやす」作成プロジェクトの監修者。2015年第13回日本語教育学会賞受賞。2021年AMERICAN ASSOCIATION OF TEACHERS OF JAPANESE LIFELONG ACHIEVEMENT AWARD受賞。2022年、文化庁長官賞受賞。



お問合せ：関西大学大学院外国語教育学研究科オフィス
gaiji@ml.kandai.jp